

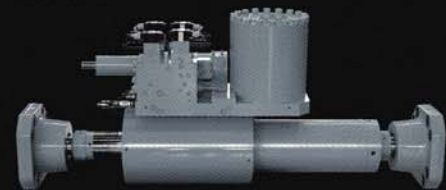
そのとき、心まで揺れないように。



世界初。地震の揺れで、地震の揺れを止める制震技術。

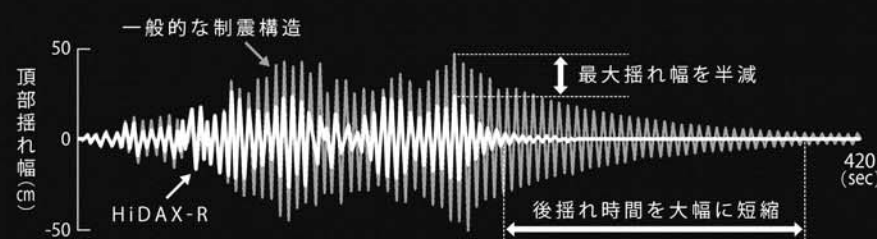
もしも超高層ビルで大地震にあったら、本当に安全だろうか。2011年の東日本大震災をきっかけに、そうした不安は日常と隣り合わせになりました。これからの制震技術は、ビルの揺れ幅だけではなく、心の揺れ幅まで受け止めることができなければ。鹿島がたどり着いたのは、F1マシンのブレーキ制御などに用いられるエネルギー再生システムの原理を、建物に応用することでした。世界初、

HiDAX-R



VERS(振動エネルギー再生システム)搭載制震オイルダンパー「HiDAX-R」。建物が揺れるごとに振動エネルギーを回収し、即座に自らの

制震エネルギーとして再利用するのです。それによって、これまでの限界を超える飛躍的な制震効率を実現。当社従来型「HiDAX」の約2倍、通常のオイルダンパーの約4倍の性能を発揮します。東日本大震災と同じ地震動が発生した場合、「HiDAX-R」を設置する



東日本大震災(東京・大手町の記録)に対する35階建物の解析例

ことで一般的な制震構造に比べて揺れ幅は約2分の1に減少、後揺れ時間は9分の1程度まで劇的に短縮されます。同じビルの中においても、体感する地震はまったく違う

ものになるはず。万が一の大地震に備えながら、日々の風揺れまでもカバーする「HiDAX-R」。その姿は決して人目につくことはありませんが、いつも柱のそばから、24時間365日、休むことなくビルを揺れから守り続けていきます。「HiDAX-R」で鹿島が最大化したかったのは、数値では表すことのできない安心です。

